

2013.12.01  
No.378

# 福竜丸だより

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内  
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail : fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org

「マーシャルの人びとと福竜丸は、核の悲劇でつながっている」とムラー外相は語った。写真中央・ムラー外相夫妻、左から安細大使、ひとりおいてキジナー駐日大使、川崎代表理事。



## 60年記念事業よびかける

秋の深まりとともに修学旅行・社会科見学などの団体

見学を迎え、館内にはにぎやかな声がひびいています。今年の秋の来館者の傾向としては、大学のゼミナールや労働組合の青年部などの学習・研修での見学が増えています。

### 久保山忌に集う

九月二三日の久保山愛吉さんの命日には、多彩なプログラムが生まれ、展示館ボランティアの会は、久保山愛吉さんの妻・すずさんを主人公にした紙芝居「バラの祈り」を朗読しました。また、一月一二日には、久保山家からバラが株分けされ移植されて二〇年を記念して、コンサートが開かれました(4めん)。

### マーシャル外務大臣来館

一〇月二四日、マーシャル諸島共和国のフィリップ・ムラー外相が在マーシャル日本大使館の安細和彦大使、トム・キジナー駐日マーシャル大使らとともに来館し、川崎昭一郎代表理事の案内で館内を

見学しました。

ムラー外相は都内で開催された「太平洋・島サミット第二回中間閣僚会合」に出席するために来日しました。この会合は一五カ国と一地域が加盟する太平洋諸島フォーラムの閣僚級関係者が参加するもので、ムラー氏は岸田文雄外相と共に共同議長を務めました。

### 六〇年記念事業に向けて

来年三月一日は、ビキニ水爆被災から六〇年です。第五福竜丸平和協会では記念事業を企画、準備をすすめています。一〇月二七日には、協会役員と推進担当、事務局との合同懇談会を開催し、企画内容についての論議を深めました(事業については同封の案内をご参照ください)。

本号は60年記念事業準備のため発行を二月一日とし、4ページ構成です。次号は一月一日号です。

# 島ら福かで馬相南 かキニビと ことええ考

原澤伸江

「目に見えないもの」

たれが風を見たでしょう  
あなたも僕もみやしない  
けれど、こだちがあたまを  
さげて

風は通りすぎてゆく

三宅泰雄さんの著書「空気の  
発見」の冒頭にイギリスの  
クリスチーナ・ロッセツティ  
さんの詩を西条八十さんの訳  
詩で紹介しています。

福島やビキニの風は、どこ  
に吹いてゆくでしょう？

一九五四年に第五福竜丸が  
被ばくしたビキニの島の住民  
たちとの四〇年に渡る交流か  
らフォートジャーナリスト島

同慶寺の田中住職と仲間たち  
のバンド演奏



田興生さんは、ビキニと福島  
の「風化」を危惧して、各地  
で「スライドトーク」をされ  
ています。

## 南相馬で語る会

九月二八日福島県南相馬市  
小高の同慶寺で「知って、歩  
く」ビキニの海・福島海、  
いま、同じ太平洋でおこつて  
いること」と題して催しが  
ありました。

初めに経本が配られ読経。

第一部「帰島に揺れるロンゲ  
ラップの人びと」／島田興生

第二部「南相馬市モニタリ  
ングの解析報告」／岡野眞治

（放射線研究者。第五福竜丸  
が被ばくしたビキニ事件では  
日本政府による調査団の一員

としてビキニ環礁へ行き、チ  
エルノブイリ原子力発電所事  
故のウクライナ・プリピャチ  
周辺、福島第一原発事故の福  
島県各地等、あらゆる場所で  
放射線状況を詳しく調査・測  
定。）

第三部 内田ボブライブ  
（長野県大鹿村在住、シンガ  
ーソングライター。非核・非  
戦を訴え、世界中「歌う旅」  
を続ける。マーシャル諸島を  
三回訪問）

## 子どもの将来のために

住職の田中徳雲さんは、五  
年後、十年後、そして七世代  
先の子供たち、すべての生き  
ものたちの幸せのために、福  
島から現実を見つめ、行動を  
起こしていく、そんなきつか  
けの一つになればと、集いの  
場を設け、プログラムの合間  
には、同慶寺とレインポー合  
唱団による「慈しみ」の歌を  
参加者と共に歌いました。

南相馬市小高区は、福島第  
一原子力発電所から二〇キロ  
圏内で、現在は、避難指示解  
除準備区域に指定され、小高  
区内に立ち入ることはできま  
すが、特別な許可がない限り

宿泊はできません。住職の田  
中徳雲さんいわき市で避難  
生活をされています。参加者  
からは「避難先の住所を書け  
ばいいの？」と受付で尋ねら  
れました。

## 胸痛む被災地の光景

東京から参加した私は、福  
島行きの深夜バスが、満席で  
予約が取れず、原発事故と津  
波被害で、常磐線は、一部不  
通。前日「いわき市」駅前の

宿に泊まり、事前に「いわき  
市から車で、福島第一原発近  
くの『立ち入り禁止区域』を  
通過するので、身分証を持参  
してください」との連絡を受  
け、往復の車内では、放射線  
量測定しながらの走行。原発  
近くの地点では、簡易型放射  
線測定器の警報音が鳴り響き  
ました。「立ち入り禁止区域」

の出入り検問では、立ち入り  
許可証と身分証（同乗者全員）  
を調べられ、車内でもマスク  
を着用。路上で検問をしてい  
る人たちもマスク装着してい  
るものの、顎にマスクを当て  
た青年もおり、放射線の危険  
性がわかりにくいを感じさせ  
られました。緑豊かな山々

を背景に、今なお津波で流さ  
れた乗用車、壊れたままの家  
屋、シートをかぶせた放射能  
汚染土の塊がいくつも並ぶ風  
景に胸が痛みました。

## あたたかな交流

ビキニでは、水爆実験から  
六〇年となります。ロンゲラ  
ップの子どもたちは、水爆実  
験直後の降ってきた「白い粉」  
を体につけて遊び、脱毛や肌  
が焼けただれ、その後も、流  
産を数回繰り返した人、指が  
六本ある子ども、甲状腺疾患、  
がんなどの病気や障がい苦し  
しみ、今なお、放射能除染を  
した島への帰島を悩んでいま  
す。

この現実を福島に伝える  
反響を案じておりましたが、  
五〇名ほどの参加者の想いは  
高く、暖かく、本当のことを  
知り、生きてゆきたいという  
熱意を感じました。昼食は、  
カリタス原町ベースのボラン  
ティアさんたちからのおにぎ  
りの差し入れをいただき、感  
謝と共に生きる人々を感じた  
集いとなりました。（はらさ  
わ のぶえ／ビキニふくしま  
プロジェクト）

# 死の灰に立ち向かった 科学者に寄せて

山本義彦

一九五四年三月一日の第五福竜丸被災事件は、水爆の脅威、放射能の汚染、食の安全や健康不安、環境への影響など多岐にわたった衝撃的な事件であった。

事件は、九月二三日に被災者久保山愛吉さんの尊い犠牲を招いたことで、水爆実験の持つ人類への危険性を嫌が上にも示すことになった。事件を契機として、原水爆禁止運動が燃え上がった。ところがこれに抗するようにアメリカは米ソ冷戦体制の下で、核実験に固執する一方、旧ソ連もまた核開発競争に突き進んだ。

「一九五四年」は、極めて重要な画期となっていたことは、この年五月、原水爆実験の被災の事実を究明すべく政府が行った調査からも知ることが出来る。水産庁の俊鶴丸を使って、様々の分野の自然科学者が乗り込んだ調査団が

組織された。

その顧問団として主導的役割を果たした一人が、気象研究所の三宅泰雄氏であった。氏の著書、『死の灰と闘う科学者』岩波新書、一九七二年（二〇一一年復刊）には、俊鶴丸調査の克明な記録と評価が記されている。

私は、長く第五福竜丸事件のことに関心を持ってきた一人であると思うが、本書の存在には、残念ながら気づかぬままに過ごしてきた不明を恥じねばならない。

この書物に気づかされたのはこのNHK・ETV特集「海の放射線に立ち向かった日本人」俊鶴丸と科学者（一月二八日放送）を通じてであった。番組では、当時、調査に加わった人々の意見も紹介されて貴重な映像であった。調査団の海水雨水大気関係の調査に当たった一人、岡野

真治氏（原子物理）が製作し、俊鶴丸で活躍したシンチレーション測定機が、実は古物を集めて作った苦心の作であることが話される。

いまは第五福竜丸展示館に展示されている測定機の前で岡野氏は、真空管をかえれば機能するだろうと語っておられた。

三宅氏は指摘する。俊鶴丸調査は、世界で唯一、原水爆実験推進のためではない、人類に及ぼす影響を、人々の平和に生きる思いを身に体した取り組みであったということである。それは、様々な分野の研究者の見事な共同調査であったということでもある。

まさに「科学の社会的責任」を身をもって実践したことであるという。この「責任」という言葉は得てして、「それがお前の責任だ」式の、いわば相手に一方的に責め(duty)を負わすとか、一九八〇年代後半以来流行りの浅薄な「説明責任」（会計学の計算可能性、accountability）というふう

に捉えられがちである。しかし三宅氏たちは、そう

ではなく科学者が社会に向かつて自己の科学研究の営みについて、積極的に応答可能性を持つ(responsibility)、ということではなければならぬことを見事に示している。

そのことはまた、当時、水爆実験に狂奔した米ソを中心とする諸国に対する異議申し立ての運動にも厳しい目を向けている。そこにあるのは、科学の目的には、いかなる曇らされる意識をも投影してはならないという誠実な態度である。

実際、科学者の一部には社会主義ソ連の原水爆実験が社会主義と世界人民の平和擁

護のための手段であるかのよう

に認識し、それへの批判を手控え、時に批判者を排撃する動きもあったことが明示されている。こうした中で、三宅氏が自らの科学的分析に事実

## ビキニ・第五福竜丸60記念のつどい

第五福竜丸被ばく60年目の3月1日に集みましょう



### ■ 記念コンサート

「第五福竜丸の記憶のために」

三宅榛名(作曲家・ピアニスト)

〈現代社会が音楽だ〉と鋭く真実に迫る音楽作品を発信しつづける作曲家、インプロヴィゼーション・ピアニスト三宅榛名さん。どのような旋律・響きのなかに第五福竜丸は航海を続けるのか、ワクワクしてその瞬間をみなさんと迎えたい…



### ■ 記念講演

「宇宙的視点から考えるーヒトと地球と空と核」

池内了(天体物理学者)

水爆実験によるグローバルフォールアウト、浴びせられるいわれない放射線被ばくにピリオドを打つべく人びとは声を上げた。ビキニ水爆被災事件60年に、核なき明日への希望を紡ぎたい…

2014年3月1日(土) 午後2時～4時半 日本青年館中ホール

入場料2000円 学生1000円(中学生以下無料)

◇予約、チケットは1月より第五福竜丸平和協会で受付ます

### 秋晴の久保山忌に集う



59回目の久保山愛吉さんのご命日。展示館の周りに曼珠沙華が咲きそろうなか、9月23日の「久保山忌」には今年もたくさんの方が夢の島に集まりました。東京原水協の参加者は展示館見学の後、学習会を開き、協会の安田和也事務局局長が「水爆開発の時代とマーシャル諸島の核被害」について講演しました。元乗組員・大石又七さんが主宰する「築地にマグロ塚を作る会」は、現代史研究者・小沢節子さんが講演し、大石さんを囲んで語り合いました。

「平和を語る第五福竜丸のつどい」では、絵本『ここが家だーベン・シャーンの第五福竜丸』の朗読や紙芝居『トビウ

オのぼうやはびょうきです』を読む出演者もあるなか、展示館ボランティアの会では、静岡でビキニ事件の究明にとりくむ佐々木悦子さん、矢部正美さんによる創作紙芝居「ばらの祈り～久保山すずさんの道」を朗読しました。

### 愛吉・すずのバラの日に



1993年9月12日に久保山すずさんが亡くなられた後、久保山家より株分けしてもらい、10月12日に久保山碑のわきにバラが植えられました。20年目を記念して「愛吉・すずの薔薇の日コンサート」が開かれました（俳優座の飯原道代さんが企画演出）。選りすぐられた言葉の朗読と歌、役者たちの合

唱と愛染恭介さんギターによるひとときに、40名の参加者が聞き入りました。

### 元乗組員ご家族来館

第五福竜丸の元甲板員、斉藤明（さとし）さんのご家族が、11月3日に来館しました。斉藤さんは、2012年5月30日に肝臓ガンで亡くなりました。

斉藤さんの故郷は鹿児島県屋久島。出稼ぎ先の焼津で、第五福竜丸に乗船することになりました。被ばくにつづく入院生活後に故郷に戻り、小さな漁船で漁師をつづけられました。

この日は斉藤夫人と二人の息子、娘と孫など7人で来館。展示パネルの乗組員の入院中の写真を指差し、これがおじいちゃんだよ、と話していました。



## 反核を発信しつづける句会

飯田史郎

### 久保山忌孫の書棚に「はだしのゲン」

林 計男

第三三回久保山忌句会は、夢の島・東京スポーツ文化館で行われ、冒頭句が船員証受賞に。

句会に先立つ午前、実柘榴の見守る愛吉さんの遺言碑に竜胆を献花し、川崎昭一郎平和協会代表理事よりご挨拶を戴いた。福島原発の汚染水漏れや原発輸出への懸念と、来年の福竜丸被爆六〇周年、「すずさんの薔薇」植樹二〇年など感慨深く聴いた。

久保山忌句会の第一回は一九八一年九月二三日。それ以前、第五福竜丸が夢の島に沈みかかっていた頃から、新俳句人連盟の仲間はずでに吟行していた。第一回目の句会の作品焼津まで秋空一枚遺言碑

田中千恵子

以後、愛吉さんの碑は「遺言碑」として多くの仲間から親しみを持って詠われている。第一二回久保山忌句会からは、最優秀作品に第五福竜丸の乗組員としての「船員証」が授与さ

れるようになった。第一〇回、二〇回には記念小冊子を発行。また、愛吉さんの没後五〇年の第二四回には、展示館内で約一ヶ月間「ビキニデー俳句作品展」を開催するなど、第五福竜丸平和協会のご協力を得て、核兵器反対、世界の平和を願い毎年句会を開催してきた。

二〇一一年三月十一日の東日本大震災・津波による福島原発事故は、たくさんの方の被曝者を出し、愛吉さんの願いは裏切られた。この年の第三二回の船員証受賞句は  
遺言の歯ぎしりに揺れ  
ざくろの実 望月たけし

愛吉さんの心を通し、原発事故への怒りを「歯ぎしりに揺れ」と厳しく告発している。反核を世界に発信続けている第五福竜丸の六〇周年には、更に核廃絶と、原発廃棄の願いに向けた作品での何らかの企画をたてたいと思う。（いいだしろう／新俳句連盟事務局長）